

したがって、理想入力 $u_p^*(t)$ は

$$u_p^*(t) = D_M x_{m1}(t) + \alpha x_{d1}(t) + c x_{d2}(t) + T_M u_M(t) \quad (9)$$

で与えられる。また、誤差方程式は (10) 式となる。

$$\begin{aligned} \dot{e}_x(t) &= \dot{x}_p^*(t) - \dot{x}_p(t) \\ &= \mathbf{A}_p^* e_x(t) + \mathbf{b}_p (\mathbf{K}^* - \mathbf{K}(t))^T \mathbf{r}(t) \\ &\quad + \mathbf{A}_{\gamma p} [\gamma(y_m(t)) - \gamma(y_p(t))] \\ e_y(t) &= y_m(t) - y_p(t) = \mathbf{c}_p^T e_x(t) \end{aligned} \quad (10)$$

ここで $e_x(t) = x_p^*(t) - x_p(t)$, $\mathbf{A}_p^* = \mathbf{A}_p - K_e^* \mathbf{b}_p \mathbf{c}_p^T$, $\mathbf{K}^* = [K_e^* \quad S_{21}^T \quad S_{\gamma}^T \quad S_{22}^T]$ である。(10) 式の線形部分は強正実性を満たすので、(11) 式を満たす $\mathbf{P} = \mathbf{P}^T > 0$, $\mathbf{Q} \geq 0$ が存在する。

$$\mathbf{A}_p^* \mathbf{P} + \mathbf{P} \mathbf{A}_p^* = -\mathbf{Q}, \mathbf{P} \mathbf{b}_p = \mathbf{c}_p \quad (11)$$

次に、(11) 式を満たす $\mathbf{P} = \mathbf{P}^T > 0$, $\mathbf{Q} \geq 0$ を求める。

$$\mathbf{P} = \begin{bmatrix} P_{11} & P_{12} \\ P_{21} & P_{22} \end{bmatrix}, \mathbf{Q} = \begin{bmatrix} Q_{11} & Q_{12} \\ Q_{21} & Q_{22} \end{bmatrix}$$

ここで、 $P_{11} = T_M(1 - p/T_i)$, $P_{21} = P_{12} = p$, $P_{22} = -T_i p/T_M$, $Q_{11} = 2(D_M + K_e^* - D_M p/T_i)$, $Q_{12} = Q_{21} = D_M p/T_M - p/T_i - 1$, $Q_{22} = -2p/T_M$ であり、 p は $\mathbf{P} = \mathbf{P}^T > 0$, $\mathbf{Q} \geq 0$ を満足するように選ぶ。リアプノフ関数の候補として (12) 式を選ぶ。

$$V(t) = e_x^T(t) \mathbf{P} e_x(t) + (\mathbf{K}(t) - \mathbf{K}^*)^T \mathbf{\Gamma}^{-1} (\mathbf{K}(t) - \mathbf{K}^*) \quad (12)$$

(12) 式の時間微分をすると、(13) 式になる。

$$\dot{V} = -e_x \mathbf{Q} e_x + 2e_x^T \mathbf{P} \mathbf{A}_{\gamma p} [\gamma(y_m) - \gamma(y_p)] \quad (13)$$

ここで、(14) 式の関係を用いて (13) 式の右辺第 2 項を変形すると、(15) 式になる。

$$\begin{aligned} \| |y_m| y_m - |y_p| y_p \| &\leq a' |e_{x1}|^2 \\ \| \tanh(\alpha y_m) - \tanh(\alpha y_p) \| &\leq c' \\ 2e_x^T \mathbf{P} \mathbf{A}_{\gamma p} [\gamma(y_m) - \gamma(y_p)] &= -2a(1 - p/T_i) e_{x1} (|y_m| y_m - |y_p| y_p) \\ &\quad - 2c(1 - p/T_i) e_{x1} (\tanh(\alpha \cdot y_m) - \tanh(\alpha \cdot y_p)) \\ &\quad - 2a(p/T_M) e_{x2} (|y_m| y_m - |y_p| y_p) \\ &\quad - 2c(p/T_M) e_{x2} (\tanh(\alpha \cdot y_m) - \tanh(\alpha \cdot y_p)) \\ &\leq \theta_1 |e_{x1}|^2 + \theta_2 |e_{x2}|^2 \end{aligned} \quad (14)$$

ここで $\theta_1 = 2|paa'/T_M| > 0$, $\theta_2 = 2|pcc'/T_M| > 0$ であり、また $\beta = \lambda_{\min}(\mathbf{Q})$ と定義すると、(16) 式に変形できる。

$$\begin{aligned} \dot{V} &\leq -\beta e_{x1}^2 - \beta e_{x2}^2 + \theta_1 |e_{x1}|^2 + \theta_2 |e_{x2}|^2 \\ &= -e_{x1}^2 (\beta - \theta_1) - e_{x2}^2 (\beta - \theta_2) \end{aligned} \quad (16)$$

(2) 式の領域内では $\dot{V} \leq 0$ となり安定性が保証される。■

3 適応 OAT フィルタを応用する方法

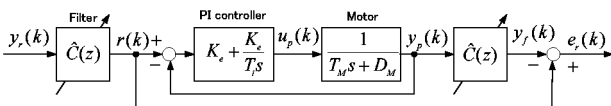


図 4: 制御系の構成図 (2)

OAT フィルタは次のように与えられる [2].

$$C(z) = c_0 + c_1 z^{-1} + c_2 z^{-2} \quad (17)$$

ただし $c_0 = 1/M$, $c_1 = -2 \cos(\omega_d T_d) e^{-\zeta \omega_n T_d} / M$, $c_2 = e^{-2\zeta \omega_n T_d} / M$, $M = 1 - 2 \cos(\omega_d T_d) e^{-\zeta \omega_n T_d} + e^{-2\zeta \omega_n T_d}$, $\omega_n = \sqrt{K_e / T_i T_M}$, $\zeta = (K_e + D_M) \sqrt{T_i / 4 K_e T_M}$, $\omega_d = \omega_n \sqrt{1 - \zeta^2}$ であり、 T_d はフィルタのサンプリング周期である。制御系として図 4 の構成をとり、フィルタの係数勾配法を用いて調整することを考える。評価関数を $V'(k) = (y_r(k) - y_p(k))^2 / 2$ として

勾配を求めると、PI コントローラとモータで構成されるシステムへ $y_r(k)$ を入力として与えた信号の出力が必要となってしまうが、この信号を得ることはできない。そこで、(18) 式で表される評価関数 $V''(k)$ を最小にするように適応調整を行う。

$$V''(k) = (r(k) - y_f(k))^2 / 2 = e_r^2(k) / 2 \quad (18)$$

調整則を次の 2 点に留意して求めると (19) 式のようになる。

1. $\hat{c}_0(k) + \hat{c}_1(k) + \hat{c}_2(k) = 1$ を常に満足するようにプロジェクトン法を用いる。

2. OAT フィルタは、ステップ入力に対して $2T_d$ の時間をかけてその入力に対する振動抑制を行うので、ステップ入力が与えられてから $2T_d$ の時間の間は適応調整を行わない。

$$\hat{\rho}(k+1) = \hat{\rho}(k) - \gamma \Phi(k) \quad (19)$$

$$\hat{\rho}(k) = [\hat{c}_0(k) \quad \hat{c}_1(k) \quad \hat{c}_2(k)]^T$$

$$\Phi(k) = [\phi(k) - \alpha(k) \quad \phi(k-1) - \alpha(k) \quad \phi(k-2) - \alpha(k)]^T$$

$$\phi(k) = (y_r(k) - 2y(k)) e_r(k)$$

$$\alpha(k) = (\phi(k) + \phi(k-1) + \phi(k-2)) / 3$$

ただし $|r(k) - r(k-1)| < 10^{-9}$, $|r(k) - r(k-2)| < 10^{-9}$ の時に適応調整を行う。

4 シミュレーション結果

物理パラメータ及び設計パラメータを次のようにした。 $T_M = 0.269[s]$, $D_M = 0.1[Nms/rad]$, $K_e = 1$, $T_i = 0.01$ とする。このときのシステムは固有各周波数 $\omega_n = 19.3[rad/s]$, 減衰係数 $\zeta = 0.11$ の振動系となる。また、フィルタのサンプリング周期 $T_d = 100[ms]$, 適応ゲイン $\gamma = 10^4$, 初期値 $\hat{\rho}(0) = [1/3 \quad 1/3 \quad 1/3]$, 制御のサンプリング周期 $T_s = 1[ms]$ とした。 T_d の値は観測雑音に対する影響を考慮して決定した。

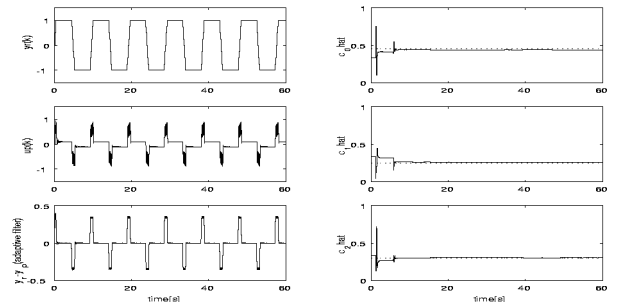


図 5: OAT フィルタを用いたモータ速度制御

図 5 の左図は上から規範信号 $y_r(k)$, 制御入力 $u_p(k)$, 出力誤差 $y_p(k)$ を示しているが、ランプ状の規範信号が入っていないところでは速度制御ができていることが確認できる。右図は適応 OAT フィルタの係数の推定値を示している。真値を点線で示しているが、それぞれ真値に収束していることが確認できる。

5 結論

適応フィードフォワード補償器を用いてモータ速度制御を行う方法を説明した。単純適応制御を応用した方法では、安定性の証明を行った。また、シミュレーションを通して、適応 OAT フィルタを用いてモータの速度制御を行うことができることを示した。

参考文献

- [1] Takaaki Sekiai et al., "On-Line Tuning of One-Mass Motor Drive System by Simple Adaptive Control", IFAC ALCOSP, pp. 359-364, 2001
- [2] David P. Magee and Wayne J. Book, "Optimal Filtering to Minimize the Elastic Behavior in Serial Link Manipulators", Proceedings of the ACC, pp. 2637-2642, 1998